

年 組 名前:

問1

人工知能(AI)による魚の自動選別技術を開発しようとした理由はなぜですか。

.....  
.....  
.....  
.....

問2

AIによる技術開発によって改善されたことの正しいものすべてに○を付けてください。

### 魚AIで自動選別 担い手不足解消へ試験

地方独立行政法人青森県産業技術センターなどは、定置網漁で水揚げされた約40種類の魚を、人工知能(AI)により自動で選別する技術を開発した。担い手不足が課題だった漁業で、約3割の省力化が見込めるといふ。魚の大きさや数も計測でき、買い手側のニーズに応えやすくなる。八戸漁港(青森県八戸市)で実証試験が続いており、実用化も近い。

同センターによると、約40種類の魚を9割以上の精度で判定できる。1月26日の試験では水揚げされたサケやマダラなど約1トをカメラがついた装置に通し、あらかじめ学習させたデータと照合し魚種を判定。ベルトコンベヤー上で流れる魚を自動で仕分けした。一部、間違つて選別された魚は人の手で分け直していた。

試験に携わる深川商会(同市の深川修一社長64)は人と同等レベルで選別できている。どこで間違えるのか、確認しながら試験ができた」と話した。

青森県では高齢化や就業者不足により、担い手確保が難しくなるなか、選別に関わる人手を削減できる。水揚げの総重量しか分からなかった魚のデータも、選別と同時に大きさや数も計測できる。インターネットを利用し、魚の詳細が「見える化」され、現地の仲買や遠くの市場からでも簡単に把握でき、購入する際の情報になる。

定置網漁で水揚げされた魚を自動で選別する装置の実証試験  
|| 青森県八戸市

(2021年1月31日付 山梨日日新聞5面)

- 「 」 ミスすることは絶対でない
- 「 」 担い手が約3割省力化できる
- 「 」 魚の大きさや数・種類が計測、判定できる
- 「 」 買い手側のニーズに応えやすくなる
- 「 」 どんな大きい魚でも判定できる

問3

AI技術は、漁業以外で、どのような分野で活用できると思いますか。あなたの考えを書いてください。

.....  
.....